

科目名	基礎看護学実習 I	1年次	1単位 45時間	
科目 目標	1. 療養の場における対象を生活者としてとらえ、対象に合わせた日常生活援助が実施できる			
	教 育 内 容			
	1. 看護の対象理解 1) 身体的側面 2) 心理的側面 3) 社会的側面 2. 対象の生活環境の理解 1) 物理的環境の把握 2) 人的環境の把握 3. 対象に合わせた日常生活援助			
評価方法	評価表による評価			

科目名	基礎看護学実習Ⅱ	2年次	2単位 90時間	
科目目標	1. 受け持ち患者への看護実践に看護過程展開の技術を適用し、問題解決技法の基礎を理解する			
	教 育 内 容			
	1. 看護の展開方法 1) アセスメント 2) 看護問題の明確化 3) 看護計画立案 4) 実施 5) 評価			
評価方法	評価表による評価			

科目名	地域・在宅看護論実習	2～3年次	2単位 90時間	
科目目標	1. 地域包括ケアシステムの実際を理解するとともに、地域における健康の保持増進に向けた看護を理解する。 2. 在宅で療養している対象を理解し、在宅看護に必要な基礎的能力を習得する。			
	教 育 内 容			
	1. 社会資源の活用、関係機関・職種との連携 1) 対象を支える社会制度、社会資源 2) 社会資源の活用方法と経費 3) 対象や家族を支える多職種と連携方法 4) 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割 2. 施設と在宅間の継続看護の必要性 1) 療養の場の選択における意思決定支援 2) 療養の場の移行における調整と連携 3. 対象の健康の保持増進に向けた看護 1) 障害の程度、日常生活自立度、認知症の程度、要介護度に応じた支援 2) 介護予防や疾病の悪化防止の支援の実際 4. 在宅で療養している対象の特徴 1) 対象および家族の生活状況・生活環境 2) 対象の健康状態や障害 3) 健康状態や障害が日常生活に及ぼす影響 4) 家族の介護力 5) 対象や家族が抱える療養上の問題 5. 在宅で療養している対象の援助の実際 1) 対象と家族の意向を尊重した看護 2) 生活環境や生活能力に合わせた看護方法 3) 倫理的配慮の実際（在宅看護における権利保障） 4) 経済性や時間配分を配慮した援助の必要性 5) 安全管理（緊急時・災害時）			
評価方法	評価表による評価			

科目名	成人看護学実習 (成人期の対象理解と生活を支える看護)	2～3年次	2単位 90時間	
科目目標	1. 成人期の対象を理解し、生活と健康をはぐくむために必要な看護が理解できる			
	教 育 内 容			
	1. 成人期の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる <ul style="list-style-type: none"> 1) 身体面・精神面の発達及び機能的変化 2) 成人期の社会的役割 2. 成人期の対象が健康を維持・促進し、自立した生活を送るための援助がわかる <ul style="list-style-type: none"> 1) 健康観の理解 2) 健康の保持・増進のための活動と看護師の役割 3) 治療に必要な意思決定支援の場での看護 3. 多様な場で生活する成人の健康問題への援助がわかる <ul style="list-style-type: none"> 1) 健康問題が対象に及ぼす影響 2) 対象に行われる検査・治療・処置に必要な援助 3) 対象の健康状態に応じた日常生活援助 4) 対象の生活の場に応じた支援 5) 対象を支える多職種連携 			
評価方法	評価表による評価			

科目名	老年看護学実習 (老年期の対象理解と生活を支える看護)	2～3年次	2単位 90時間	
科目目標	1. 老年期にある対象を理解し、加齢と健康障害に応じた看護に必要な基礎的知識・技術・態度を習得する			
	教 育 内 容			
	<p>1. 高齢者の特徴を理解し、加齢や疾病に伴う生活機能障害への看護ができる。</p> <p>1) 高齢者の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる</p> <p>(1) 加齢による身体的変化</p> <p>(2) 加齢による精神的変化</p> <p>(3) 加齢による社会的役割・生きがいの変化</p> <p>2) 健康障害が高齢者におよぼす影響の理解と、生活機能障害に応じた援助ができる。</p> <p>(1) 健康障害が対象に及ぼす影響</p> <p>(2) 安全・安楽・自立性を踏まえた援助</p> <p>(3) 予測される二次障害を予防するための援助</p> <p>3) 高齢者のその人らしい生活を支える個別性をいかした援助ができる。</p> <p>(1) 価値・信念の多様性を踏まえた援助</p> <p>(2) 生活機能の維持・向上の援助</p> <p>2. 高齢者の QOL 維持・向上に必要な多職種との連携を学ぶ。</p> <p>1) 高齢者と家族の健康を支えるシステムが理解できる。</p> <p>(1) 対象と家族を支える社会資源</p> <p>(2) 多職種連携と看護師の役割</p> <p>2) 高齢者への尊厳・権利の尊重に基づいたケア提供者としての態度を養うことができる。</p> <p>(1) 高齢者の自尊心に配慮したかかわり</p> <p>(2) 高齢者の権利擁護と看護師の役割</p>			
評価方法	評価表による評価			

科目名	経過別看護実習 (慢性期にある対象の看護)	2～3年次	2単位 90時間	
科目目標	1. 慢性の経過をたどる対象の病との共存を支えるための看護ができる			
	教 育 内 容			
	<p>1. 慢性の経過をたどる健康障害が、対象の身体的・精神的・社会的側面に及ぼす影響の理解</p> <p>1) 対象の健康状態の経過</p> <p>2) 病態、発達段階による器質・機能的変化</p> <p>3) 疾病・治療・入院が対象の精神面に及ぼす影響</p> <p>4) 疾病・治療・入院が対象の社会面に及ぼす影響</p> <p>2. 健康を維持していく上で必要なセルフケア行動獲得の支援</p> <p>1) 疾病・治療・入院の受け止め方</p> <p>2) 健康障害が対象の日常生活に及ぼす影響</p> <p>3) セルフケア能力の評価と必要な支援</p> <p>3. 生活の場に合った療養行動を取り、合併症や急性増悪を予防するための支援</p> <p>1) 検査・治療・処置に必要な援助</p> <p>2) 予測される合併症予防の支援</p> <p>4. 地域で自立した生活を送るために必要な医療施設と地域の保健医療福祉サービスの連携の理解</p> <p>1) 対象と家族を支える社会資源</p> <p>2) 退院調整と多職種連携</p> <p>3) 継続看護</p> <p>5. 家族状況に応じた援助</p> <p>1) 対象の健康問題が家族に及ぼす影響</p> <p>2) 患者・家族会の活用と支援</p>			
評価方法	評価表による評価			

科目名	経過別看護実習 (急性・回復期にある対象の看護)	2～3年次	2単位 90時間	
科目目標	1. 生命の危機的状況にある対象の健康回復に向けた看護ができる			
	教 育 内 容			
	<p>1. 生体機能の急激な変化が、対象の身体的・精神的・社会的側面に及ぼす影響の理解</p> <p>1) 生命の危機状態にある対象の身体的特徴</p> <p>2) 生命の危機状態にある対象の心理的反応</p> <p>3) 急激な健康状態の変化が対象の社会的側面に及ぼす影響</p> <p>2. 生命を維持する為の援助</p> <p>1) 急激な変化をたどる対象の病態の理解</p> <p>2) 診療の補助・診察時に必要な援助</p> <p>3) 救命救急に必要な医療機器の管理</p> <p>4) フィジカルイグザミネーションとアセスメント</p> <p>3. 合併症を予防し、回復促進の為の援助</p> <p>1) 予測される合併症予防に必要な援助</p> <p>2) リハビリテーションを促進する援助</p> <p>3) 安全・安楽・自立を踏まえた援助</p> <p>4. 病状に伴う苦痛や症状緩和の援助</p> <p>1) 侵襲に対する苦痛の緩和</p> <p>2) 精神的苦痛の緩和</p> <p>5. 回復段階にあわせた日常生活自立のための援助</p> <p>1) 再発防止に向けた指導</p> <p>2) 社会資源の活用</p> <p>6. 家族の状況に応じた援助</p> <p>1) 対象の健康問題が家族に及ぼす影響</p> <p>2) 家族の混乱や不安への関り</p> <p>3) 対象と家族の交流のサポート</p>			
評価方法	評価表による評価			

科目名	経過別看護実習 (終末期にある対象の看護)	2～3年次	2単位 90時間	
科目目標	1. 近い将来死を免れない対象のQOLを高める看護ができる			
	教 育 内 容			
	1. 近い将来死を免れない状況にある対象の身体的・精神的・社会的・霊的側面の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の身体的特徴と日常生活への影響 2) 対象の精神的特徴と日常生活への影響 3) 対象の社会的役割の変化と日常生活への影響 4) 病態が霊的側面に及ぼす影響 2. 終末期にある対象の希望と安全性を配慮した日常生活の援助 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病態、治療方針に対する受け止め方 2) 状態、症状に応じた安全性・安楽性に配慮した援助 3) その人らしい生活を送るためのQOL維持・向上への支援 3. 末期にある対象の価値観を尊重し、苦痛を緩和する為の援助 <ol style="list-style-type: none"> 1) 価値観、信念、想いの傾聴 2) 症状および苦痛を緩和するための援助 3) 緩和ケア 4) 寄り添うことの意味 5) 終末期看護におけるチーム医療と協働する専門職の役割 4. 家族の状況に応じた援助 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の健康問題が家族に及ぼす影響 2) 家族のニーズの充足への関わり 3) 死の準備 			
評価方法	評価表による評価			

科目名	小児看護学実習	2～3年次	2単位 90時間	
科目 目 標	保育所実習 1. 子どもの身体的・精神的・社会的な成長・発達の実際を理解する 2. 基本的な生活習慣の自立に応じた児への関わり方を理解する 3. 保育施設と家庭との連携の実際を理解する 4. 保育所で行われている安全管理・健康管理を理解する 病棟実習 1. 健康障害を持つ子どもとその家族の特性を理解する 2. 健康障害を持つ子どもに必要な看護援助を発達段階との関連で考えることができる 3. 子どもと親の双方の健康問題を明確化し、発達段階に合わせて援助できる 4. 小児看護における保健・医療・福祉の連携と看護師の役割を理解できる			
	教 育 内 容			
	保育所実習 1. 小児が生活する保育環境 (1) 保育所の日常の流れ (2) 保育所と家庭の連携 2. 子どもの成長発達状況 (1) 年齢に応じた身長・体重の発達 (2) 年齢に応じた運動機能の発達と活動 (3) 年齢に応じた言葉や知能の発達 (4) 年齢に応じた社会性の発達 3. 基本的な生活習慣の獲得状況と自立支援 4. 成長発達の応じた子どもとの接し方 (1) コミュニケーション (2) 遊び 5. 保育所における子どもへの安全面の配慮 病棟実習 1. 健康障害のある小児と家族の理解 (1) 対象の成長発達段階の観察と評価 (2) 対象のコミュニケーション能力と特徴 (3) 対象の健康障害の把握 (4) 健康障害や入院が日常生活に及ぼす影響 (5) 子どもの入院に対する家族の認識や不安の理解 2. 対象の健康状態や成長発達を考慮した日常生活援助 (1) 対象の発達を促進する日常生活援助 (2) 安全・安楽を念頭に置いた日常生活援助 (3) 対象に適した遊びや気分転換活動の援助 (4) 健康管理や治療・検査・処置に伴う援助（与薬 ・吸引 ・浣腸） 3. 小児の安全安楽を守るための援助 (1) 対象の発達段階に応じて予測される事故 (2) 日常生活の診療の補助における事故防止 (3) 小児の感染予防の援助 4. 小児看護における保健・医療・福祉の連携と看護 (1) 関連する施設や社会資源の活用 (2) 多職種との連携・調整・情報交換 (3) 在宅医療への支援と継続看護 (4) 看護の専門性と役割 5. 子どもの権利を尊重した看護			
評価方法	評価表による評価			

科目名	母性看護学実習	2～3年次	2単位 90時間	
科目目標	1. 周産期にある母子の特徴を理解し、必要な援助が実施できる 2. 女性生殖器に健康障害を持つ対象の治療および療養生活を理解し、必要な看護が考えられる			
	教 育 内 容			
	1. 妊娠期の正常な経過と看護が理解できる。 1) 健康診査 2) 妊娠各期に応じた保健指導 2. 分娩期の正常な経過と看護が理解できる。 1) 分娩各期に応じた観察と援助 2) 産痛緩和 3) 陣痛促進に向けた援助 3. 産褥期の看護が理解できる。 1) 退行性変化 2) 進行性変化 3) 育児技術習得 4) 愛着形成 4. 新生児の看護が理解できる。 1) 胎外生活適応 2) 感染防止・事故防止 5. 周産期に活用できる包括的支援が理解できる 1) 母子とその家族の安全・安心な暮らしに向けた支援 6. 女性生殖器に健康障害を持つ対象の治療および療養生活を理解し、必要な看護が考えられる。 1) 疾患及び治療・検査が日常生活に及ぼす影響 2) 疾患及び治療・検査が精神面・社会面に及ぼす影響 3) その人らしい暮らしに向けた支援			
評価方法	評価表による評価			

科目名	精神看護学実習	2～3 年次	2単位 90時間	
科目 目 標	1. 精神に障害のある対象とその家族を理解する 2. 看護師に必要な治療的関わりについて理解し、対象のセルフケアレベルに応じた援助が実施できる 3. 精神に障害のある対象に活用できる社会資源について理解する			
	教 育 内 容			
	1. 精神に障害のある対象とその家族の理解 1) 家族構成、成育歴、生活歴の把握 2) 発達段階の理解 3) 主な症状 4) 現病歴(発症から今に至るまでの経緯) 5) 病識および治療に対する患者の理解度 6) 疾患や治療に対する家族の思い 2. 精神症状が日常生活に及ぼす影響 1) 健康な精神活動の理解 2) 日常生活動作への影響(食事、排泄、睡眠、活動、入浴、更衣等) 3) 他者との関係性(患者間、患者－医療者間) 4) アセスメント 3. 法的根拠に基づく治療的環境の実際 1) 入院形態と様々な制限 (人権擁護、隔離、拘束、通信制限等) 2) 治療方針・治療内容(精神療法、薬物療法、認知行動療法、他) 3) 生活環境の調整 4) 安全管理 4. 看護の実際 1) 対象との効果的なコミュニケーション技術 2) 対象に応じた接近法 3) 対象のセルフケア能力に応じた関わり 4) 対象の反応を捉えての援助の実施、評価 5. 社会復帰に必要な社会資源の活用 1) 対象とその家族が抱える社会的問題の理解 2) 家族への支援 3) チーム医療、多職種連携 4) 自立に向けた援助 5) 地域での生活を支える社会資源 6) 作業所、就労継続支援A型・B型 6. 自己洞察			
評価方法	評価表による評価			

科目名	統合実習	3年次	2単位 90時間	
科目目標	1. 看護チームの一員として、対象の状況や個別性をふまえた適切な方法で看護を提供するための方法を理解する 2. 看護チームにおけるリーダーシップ・メンバーシップの重要性を、看護の継続性について理解する			
	教 育 内 容			
	1. 患者の状況や個別性をふまえた援助の実際 <ul style="list-style-type: none"> 1) 複数の患者の優先度を考慮した看護 2) 病棟業務と患者の状況の優先度を考慮した看護 3) 看護計画と状況の変化の優先度を考慮した看護 2. 看護の継続性の理解 <ul style="list-style-type: none"> 1) 夜勤時の看護の実際 2) 日勤から夜勤、夜勤から日勤への看護の継続の実際 3. 看護チームにおけるリーダーシップ、メンバーシップ <ul style="list-style-type: none"> 1) チームにおけるメンバーの役割 <ul style="list-style-type: none"> (1) チーム内の役割分担 (2) 自己役割遂行における調整 (3) 安全管理室、褥創チームなど (4) チームリーダーへの報告・連絡・相談 2) チームリーダーのマネジメント <ul style="list-style-type: none"> (1) 看護業務の調整 (2) 他部門との調整（NST、医療スタッフへの指示・連絡調整 3) 病棟師長のマネジメント <ul style="list-style-type: none"> 病棟管理、他部門との連絡調整 (入退院調整、事務部門、診療部門、看護部など) 			
評価方法	評価表による評価			